様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２７ 日現在

機関番号：５４５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６４２０６６０

研究課題名（和文）志摩三商会に着目した近代神戸の都市形成に関する研究

研究課題名（英文）Kobe city formation process at the modern age with focus out on ' Shimasan-Shokai'.

研究代表者
水島　あかね（Mizushima, Akane）

明石工業高等専門学校・その他部局等・准教授

研究者番号：９０４５４７６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、最後の三田藩主・九鬼隆義及び志摩三商会の社員だった元三田藩士らに着目し、彼らが近代神戸の都市形成に与えた影響について考察することを目的とする。“神戸ホーム（現神戸女学院）”など多くの教育施設に九鬼隆義や志摩三商会の社員が関わっていたことを明らかにした。また法務局保管の旧土地台帳や字限図などを用いて、明治期に志摩三商会及びその社員らが所有していた土地や彼らが設立に関わっていた教育施設の分布図を作成した。

研究成果の概要（英文）：This research focus on the influence of the last Sanda lord, Kuki Takayoshi, and the former Sanda Domain members, employees of Shimasan Shoukai, in the urbanization of Kobe city during the modern period. It was discovered that Kuki Takayoshi and the employees of Shimasan Shoukai were involved in the establishment of several educational institutions, such as Kobe Home (now Kobe College). In addition, a map showing the land owned by Shimasan-Shoukai and its employees during the Meiji Era was elaborated based on the former land register and the cadastral map stored at the Ministry of Justice.

研究分野：近代都市史

キーワード：神戸　雑居地　三田藩　志摩三商会　九鬼隆義　都市所有

１．研究開始当初の背景

明治維新後の 1872（明治 5）年の土地永代売買の解禁、1873（明治 6）年の地租改正などにより土地売買やその所有の自由が許可されたことを機に土地は不動産としての価値を持ち始め、投資目的で土地を集積しはじめる新たな資産家が登場する。したがって、近代以降の都市形成過程において、彼ら資産家の果たした役割は大きい。

神戸が近代都市として大きく発展するのは幕末期の居留地建設以降のことである。神戸は、他の開港場と比べ開港時期が遅れたため、居留地周縁に雑居地[1]が設けられたといわれている。この開港直後の混乱状態にあった神戸に、一攫千金を狙って流入するものも少なくなかった。その代表格が、元三田藩士らである。元藩主九鬼隆義は、家臣白洲退蔵や小寺泰次郎らと、1875（明治 5）に輸入洋薬販売業を営む“志摩三商会”を設立する。この志摩三商会は不動産業も手がけ神戸港後背地を中心に土地を買い占めていく。特に生田川の付け替え工事により生じた土地（現・加納町）を 1873（明治 6）年に安値で買い占め、その後の土地高騰により大儲けしたという。大正 2 年の神戸市内の地租納入者番付には、西の横綱に九鬼隆義、東の横綱に小寺泰次郎、他にも旧三田藩関係者の名をみることができる。

元藩主でありながら神戸にて商売を始めた背景には、福澤諭吉の助言があったといわれる。九鬼隆義は三田藩医で蘭学者の川本幸民を通じて福澤諭吉と出会い、その影響もあり欧米文化に関心を示し藩の近代化を積極的に推し進める。1872（明治 5）年の夏、有馬温泉に宣教師 J.D.デービス（後に新島襄と共に同志社の創立に貢献）と出会ったことを機にキリスト教にも理解を示し、彼らの伝道活動を支援するようになる。

志摩三商会設立後も積極的にキリスト教に支援を行う。社内でも布教活動を行い志摩三商会の社員は社長と副社長以外は全てキリスト教信者になったといわれる。そして神戸ホーム（現神戸女学院）”などの教育施設の設立にも大きく関わるようになる。

２．研究の目的

これまで神戸における宅地造成の先駆者とも言われた小寺泰次郎に着目して、彼の土地所有とその後の運用についての研究を進めてきた（「近代神戸における元三田藩士の土地所有実態と都市形成に関する研究」平成 24～25 年度科学研究費補助金若手研究（B）研究課題番号 24760527）。本研究は、この研究を発展させるもので、志摩三商会と元三田藩士であった志摩三商会社員（特に元藩主で志摩三商会の総裁・九鬼隆義と社長・白洲退蔵、副社長・小寺泰次郎）に着目し以下のことを明らかにすることを目的とする。

(1)雑居地内における志摩三商会所有地の特徴とその分布を把握する。

(2)“神戸ホーム”（現・神戸女学院）などの教育施設に、志摩三商会社員がどのような関わりを持っていたのかを明らかにする。

(3)明治期神戸（特に山麓部）の都市形成に志摩三商会及び元三田藩士らが与えた影響について考察する。

３．研究の方法

神戸地方法務局に保管されている旧土地台帳を閲覧し、雑居地内に志摩三商会及びその社員らが所有していた土地の情報を入手し整理する。また、神戸市立図書館や神戸市立博物館所蔵の字限図を元に作成したベースマップ（現在の中央区にほぼ一致する地域）上に得られた情報を加え、志摩三商会関係者の所有地の分布図と所有地のデータベースを作成する。

神戸市立図書館、神戸文書館、国立国会図書館、三井文庫、神戸女学院などに所蔵している志摩三商会や近代神戸に関する資料を収集する。また、地域史家や地域住民などへの聞き取りを実施する。

以上の作業を通じて、志摩三商会及びその関係者の土地所有や運用が、近代神戸の雑居地、特に山麓部の都市形成に与えた影響について考察をおこなう。

４．研究成果

(1)志摩三商会について

“志摩三商会”とは、1872（明治 5）年の神戸に九鬼隆義を中心とする元三田藩士らが設立した輸入洋薬販売会社のことである。九鬼は三田藩出身の蘭学者・川本幸民を通じて福澤諭吉との親交を深め、洋服着用、商業推進などの近代化政策を推し進める。志摩三商会の設立についても福澤の影響が大きい。

元社員で後に「七一雑報」を発刊した村上俊吉は、自著『回顧』[2]に「*三田藩の重なる士分、即ち藩政を取扱って居た、進歩派の一團、十六七名相合して、結社したる會社の名で、総裁は當藩主九鬼子爵、社長は白洲退蔵、副社長は小寺泰次郎といふ顔触であつて、本社は神戸榮町三丁目、今の正金銀行の所在地に洋装の大家屋を新築し店の一部は藥店であるが、重なる業は地家金銀を取扱ふ、今の銀行の如き者で、異なる所は金銭を預からぬのみである。*」と志摩三商会の設立時の様子を書いている。後の 1880（明治 13）年、栄町 5 丁目に社屋を移転するが、それは『豪商神兵湊の魁』[3]からも確認できる（図 1）。

1880（明治 13）年、当時社長だった白洲は

図１：志摩三商会の紹介
（『豪商神兵湊の魁』より）

兵庫県会初代議員となり、1882（明治 15）年九鬼と福沢の推薦により志摩三商会を退職し横浜正金銀行（現東京三菱銀行）の官選取締役頭取、翌 16 年に頭取となる[4]。副社長の小寺泰次郎が会社にいたのも数年で 1877（明治 10）年頃には独立した[5]。前述の『回顧』には「*・・果して數年の後に至つて、地家金銀の業は成功したが、藥種の方は失敗し、志摩三は九鬼に納められたのである。*」[6]とあることから、志摩三商会が存続していた時期は非常に短かったといえる。志摩三商会が所有していた土地の多くが、後に九鬼所有となったことが旧土地台帳により確認できた。

九鬼は次第にキリスト教にも関心を示すようになり、様々な形で伝道活動に支援を始める。彼の影響で多くの三田藩出身者がキリスト教に入信するが、“志摩三商会” 社員も白洲と小寺以外は全てキリスト教に入信した[7]。九鬼自身は、1887（明治 20）年 4 月に神戸教会にて洗礼をうけた。

(2) 志摩三商会及び関係者の所有地の分布状況

今回、1877（明治 10）年の神戸山麓部の字限図[8]を入手することができた。所有者名が書かれていた字限図がある地域については、志摩三商会関係者名義の土地の抽出を行った次に雑居地内の旧土地台帳を用いて九鬼隆義、白洲退蔵が所有したことのある土地を抽出しリスト化した。これらの情報を、過去の研究により作成したベースマップ上にプロットしていった。他にも志摩三商会の支配人だった鈴木大路や神戸ホーム設立に大きく関わった鈴木清、九鬼や白洲と関係が深かった福澤諭吉、アメリカン・ボードと関係が深く、後に同志社大学を設立する新島襄などの所有地を確認することができた。福澤は九鬼に神戸進出を進めた際、土地を買うようにも助言し、福澤自身も投機目的で土地を購入していたという[9]。

以上を踏まえ、明治 10 年〜22 年頃の雑居地内に元三田藩士らが所有したことのある土地の分布図を作成した（図 2）。その結果、志摩三商会名義の土地は、雑居地全域にわたっていたことが明らかになった。入手可能な記録史料は 1877（明治 10）年以降のものしかないため明治初頭の状況を明らかにすることはできないが、図 2 を見る限り、これまで史実で語られてきた志摩三商会が神戸雑居地内の土地を買い占めていた片鱗を窺い知ることができた。また志摩三商会が土地を買い占め後の土地高騰により巨額の利を得たという加納町の土地の一部は九鬼の所有として記録が残っていること、一部は 1891（明治 24）年に新たに小寺が購入したことも分かった。他にも志摩三商会や九鬼、小寺、白洲は所有地を外国人に貸していた（表 1・2）ことがわかっている。九鬼の永代借地については、その場所を推定することができた。

(3) 主な教育施設設立に対する志摩三商会社員らの関わり

前述の通り、九鬼の影響を受け多くの元三田藩士らがキリスト教に入信する。彼らはキリスト教伝道にも積極的で、神戸ホームなどの教育施設設立にも関わっている。またキリスト教信者ではないが、福澤の影響を受けた小寺は教育への関心が高く、多くの教育施設の設立に寄付などをおこなっていた。明治期、神戸山麓部には多くの教育施設が建設される。一部の教育施設に対して九鬼や小寺、白洲を始めとする志摩三商会関係者らが寄付や土地提供などによる支援を行っていたことがわかった。ここでは特に関わりの大きかった神戸ホームを中心に報告を行う。

①神戸ホーム[10]

神戸ホームは、1873（明治 6）年 11 月、花隈村にあった前田兵藏宅にてタルカット女史とダッカレー女史が英語や唱歌の教授を開始したことからはじまる。翌年、彼女らは北長狭通にあった白洲退蔵の家に教場を移す。続く 1874（明治 8）年 3 月に山本通に敷地を入手し校舎を設立する。表 1 は神戸ホームの校舎が設立された山本通 4 丁目 60 番の土地所有の変遷を追ったものである。明治 10 年の字限図には所有者名は書かれていなかったが、明治 22 年頃の字限図には新島襄の名前を確認することができた。また旧土地台帳の同地番は明治 23 年 7 月 23 日に新嶋八重（京都市上京区在住）の登記から始まっている。これは同年 1 月に新島襄が逝去したため、その相続によるものと考えられる。アメリカン・ボードと関係の深かった新島襄が、当時、外国人であるため土地を購入することができなかった彼女らのために土地を購入し、貸していたということが考えられる（当時外国人は通常、日本人地主との相対によって貸借

写真 1：明治 25 年頃　神戸ホーム山本通校舎（神戸女学院八十年史編纂委員会：神戸女学院八十年史,1928 より）

表1：山本通4丁目60番（後108-1）の土地所有の変遷（旧土地台帳記載）

	事故	所有者
明治22年頃		***新島襄※***
明治23年7月11日		新嶋八重
明治24年5月18日	譲受	**鈴木清他二名**
明治26年12月27日	譲受	**鈴木清・村上俊吉・本間重慶**
明治35年8月4日	買得	在日本コングリゲーショナル宣教師社団
明治45年7月2日	地上権設定	デ・ダブリユー・ラルネデ
大正9年4月27日	地上権抹消	在日本コングリゲーショナル宣教師社団
昭和2年8月1日	所移・寄付	財団法人神戸女學院
昭和11年8月1日	所移	廣虎之助・中野光藏
昭和19年8月21日	所有権移転	海軍省

※明治22年頃の地籍図に記載

し、期限は永代貸か永代貸ではないが実質無期限に近いものが多かった)。

1891（明治 24）年に土地を譲り受けた鈴木清や村上俊吉は、元志摩三商会の社員である。鈴木清[11]は、1872（明治 5）年に神戸に移住し書店や新知識の啓蒙と普及を目的とした書店を営んでいたが、明治 10 年頃に志摩三商会に入社する。この時すでにキリスト教信者だった。1879（明治 12）年に独立して“鈴木諸缶詰売捌所”を立ち上げ、特に牛肉佃煮の缶詰で成功する。その一方、翌 13 年には貧農救済的な“赤心株式会社”を設立し北海道開拓にも乗り出した。村上俊吉は、明治 7 年に志摩三商会に入社したキリスト教信者である。後にキリスト教系の新聞である『七一雑報』を創刊する。

その後、同地は在日本コグリゲーショナル宣教師社團名義の地上権設定を経て 1927（昭和 2）年に神戸女學院の土地になった。この変遷の背景には 1925（大正 14）年 4 月の外国人土地法公布、翌 11 月の制定により外国人などに土地所有権が認められるようになったことも関係していると考えられる。

1876（明治 9）年の校舎増築の際、九鬼は寄付をして、建設されたベランダ付の建物一階には九鬼の記念室が設けられた。1879（明治 12）年、同校は「神戸英和女学校」と改称し敷地東隣の白洲所有宅を借りて寄宿舎とするが、1889（明治 22）年には白洲所有の家屋と土地を買収している。1893（明治 26）年、「神戸女学院」と改称し何度か拡張を重ねるが、いよいよ敷地が手狭になった 1933（昭和 8）年、現在位置する岡田山に移転する。

②松蔭女學校

1888（明治 21）年、SPG レイディーズ・アソシエーションの宣教師 H.M.バーケンヘッドは神戸に着任する。1891（明治 24）年、山本通 1 丁目 10 番にあった九鬼家所有の邸宅にて女子寄宿学校設立の準備を進める。1892（明治 25）年に松蔭女学校を開設し、同年、中山手 6 丁目に校舎を移転した。

③その他

九鬼は 1887（明治 20）年 8 月設立された神戸女子手藝學校（元町 4 丁目）にも関わっている。また 1893（明治 26）年には九鬼の中山手 7 丁目の持ち家が神戸孤児院に寄付された[12]。中宮尋常高等小學校は九鬼の所有地に建設された。他にも市立神戸幼稚園、神戸尋常高等小學校、神戸商業講習所などの設立には小寺が寄付等により関わっている。

(4)今後の展望

本研究では、志摩三商会及びその社員らが所有地の分布図を字限図や旧土地台帳などを用いて作成し、明治期の神戸の土地を買い占めていたという一端を示すことができた。またキリスト教に熱心であった藩主九鬼隆義の影響を受け、キリスト教関係施設や教育施設の建設に志摩三商会の社員らが関わっていたことがわかった。福澤諭吉や新島襄などが同時期神戸に所有していた土地の場所等から、改めて九鬼を始めとする元三田藩士らとの繋がりが強かったことを伺い知ることができた。他にも明治期の神戸山麓部には、教育施設や外国人宣教者による伝道施設などが多く建設されていたことが分かってきたが、具体的な場所の特定には至らなかった。雑居地が設けられた神戸の特殊性を考えると彼ら宣教師が建設した伝道施設がどのように建設されてきたのかを明らかにすることは、明治期の神戸の都市形成を考える上でも重要だろう。今後は、雑居地内での外国人の土地取得とその運用に着目し、明治期の神戸の都市形成に関する研究を進めていく予定である。

注釈）

1) 外国人と日本人の雑居が認められた地域である。神戸では東は旧生田川、西は宇治川、北は六甲山山麓、南は居留地南の海岸部が雑居地として定められた。

2）村上俊吉：回顧，警醒社書店,1912

3）垣貫與祐：豪商神兵湊の魁,熊谷久榮堂,1882,p.20

4) 横浜正金銀行は白洲が入行する前から紛争が勃発していたらしく、白洲自身も時の銀行局長と衝突し、わずか 2 ヶ月で頭取職を辞任したという。これらの公務の傍ら九鬼の家宰を続けた。（北康利：北摂三田の歴史,六甲タイムス社，2000,p.218）

5）西尾久之：小寺泰次郎,季刊・歴史と神戸,神戸史学会,1965,p.25

6）村上：前掲,p.p.65-66

7）村上：前掲,p.66

8）明治 10 年「摂津國八部郡神戸港加納町地圖」「摂津國八部郡神戸港中山手七丁目地圖」など。現在の加納町、中山手通 1-8 丁目、下山手通 1-7 丁目、山本通 1-4 丁目の範囲

9）松田裕之,港都神戸を造った男《怪商》関戸由義の生涯,星雲社,2017,p127

10）神戸女学院八十年史：神戸女学院八十年史編集員会，1955/神戸小学校開校三十年記念祝典会：神戸区教育沿革史,1915/茂義樹:明治初期神戸伝道と D.C.グリーン,新教出版社,1986/同志社大学人文科学研究所編：アメリカン・ボード宣教師,教文社,2004 等による

11）赤松啓介：神戸財界開拓者伝,太陽出版,1980,pp314-321

12）成田謙吉：福澤諭吉と神戸,神戸の歴史第 5 号,1981

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 1 件）

水島 あかね：明治期における志摩三商会の土地所有実態-志摩三商会に着目した近代神戸の都市形成に関する研究,日本建築学会大会学術講演梗概集(建築歴史・意匠)，2015,pp.115-116

〔学会発表〕（計 1 件）

水島 あかね：明治期における志摩三商会の

土地所有実態-志摩三商会に着目した近代神戸の都市形成に関する研究，日本建築学会大会学術講演会，2015.9.5，東海大学湘南キャンパス（神奈川県・平塚市）

6．研究組織

(1)研究代表者

水島 あかね　(MIZUSHIMA AKANE)

明石工業高等専門学校建築学科・准教授

研究者番号：90454769

(2)研究協力者

小代　薫（KOSHIRO　KAORU）

神戸大学経済経営研究所・研究支援推進員

研究者番号：20738702

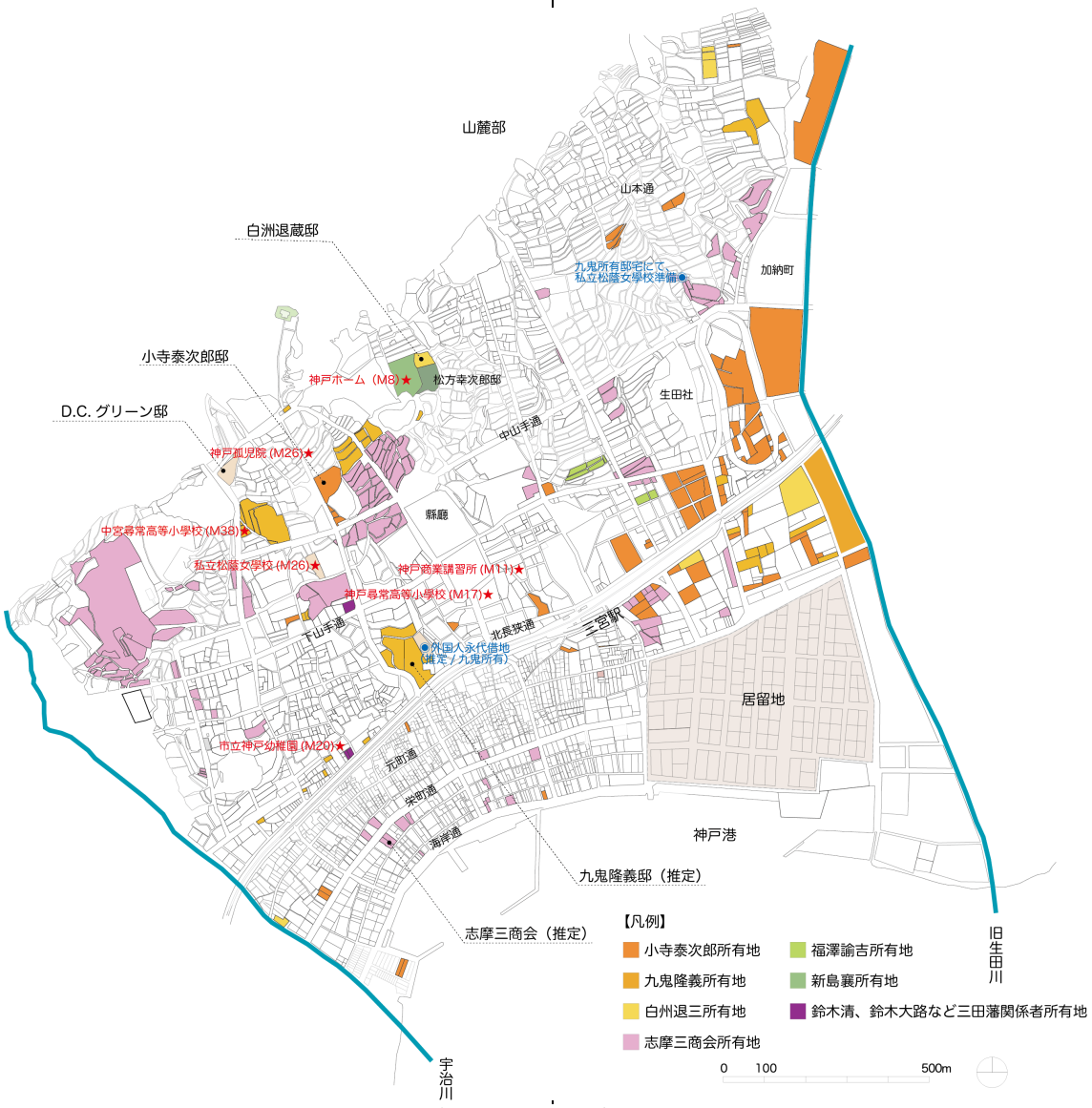

図２：明治 10～22 年頃に志摩三商会関係者が所有した土地及び関係した教育施設の分布
（M10 字限図/M22 年頃字限図/旧土地台帳などの資料を元に作成）/ベースマップ提供：小代薫

表１：雑居地の貸付状況（1883 年）

貸主人名	借主国籍	借主人名	結約日	期限	場所	坪数并建家	賃料
志摩三商会	清	林雲池	M7.9	15 年	元町 1	建家 1 ヶ所	1 ヶ月金 13 円
志摩三商会	清	歐陽庇	M8.7	15 年	元町 1	25 坪 5 合	1 ヶ月金 6 円
小寺泰次郎	伊	マンチニー	M1.10	30 年	三ノ宮町イ号	66 坪	1 ヵ年 25 両
白州退蔵	米	カルロル	M7.3	25 年	山本通 1	1,080 坪	1 ヵ年 150 円
小寺泰次郎	英	オルト	M7.7	25 年	山本通 1	393 坪 8 号	1 ヶ月 7 円 87 銭 5 厘

洲脇一郎：外国人と土地所有権，神戸市立博物館研究紀要第 14 号，1998，p. p. 1-28，付表 1-(1) より抜粋

表２：山手永代借地の状況（1883 年）

番号	地所番号	国籍	永代借地権者	備考
8	北長狭通 5 丁目 23 番地の内		九鬼隆義	元英マルシヤル，515 坪
25	北長狭通 5 丁目 22 番地の内		九鬼隆義	元英マルシヤル，241 坪 8 合
26	北長狭通 5 丁目 23 番地の内		九鬼隆義	元米ステーブル，866 坪 2 合
27	北長狭通 5 丁目 22 番地の内		九鬼隆義	元米ステーブル，866 坪 2 合

洲脇一郎：外国人と土地所有権，神戸市立博物館研究紀要第 14 号，1998，p. p. 1-28，付表 1-(2) より抜粋